

公開シンポジウム

「社会的投資はデモクラシーを救えるか」

日本学術会議政治学委員会比較政治分科会主催

日 時：平成 31 年 1 月 30 日（水）13：00～17：45

場 所：早稲田大学 26 号館 1102 室

先進諸国における低成長・緊縮・ポピュリズムの隆盛を背景に、デモクラシーの危機も指摘されるなか、国際的に広く共有された新政策規範として注目を集めてきたのが社会的投資国家の諸政策である。社会的投資戦略とは、従来所得移転を特色とするケインズ型福祉国家から、教育投資や女性労働市場などの包摂的で長期的な人的資本形成政策を軸とした高生産性経済への転換を意味している。シンポジウムでは、福祉戦略的側面と成長戦略的側面双方の包括的視点から、OECD 諸国における社会的投資政策の新展開の意味を探る。また、いかなる条件のもとで社会的投資政策が推進されるのかを解明し、さらに、民主主義の質的变化への社会的投資政策の影響を検討する。

プログラム

- 13：00 学術会議挨拶
大串和雄（日本学術会議連携会員、東京大学法学部政治学研究科教授）
- 13：10 短いイントロダクション：社会的投資とは何か
眞柄秀子（日本学術会議第一部会員・早稲田大学政治経済学術院教授）
- 13：30 多文化主義政策と社会的投資：カナダの事例
新川敏光（日本学術会議連携会員、法政大学法学部教授）
- 14：00 北欧諸国における社会的投資政策の展開（仮題）
小川有美（日本学術会議連携会員、立教大学法学部教授）
- 14：30－14：45 （ 休憩 ）
- 14：45 日本における社会的投資の可能性と課題（仮題）
三浦まり（上智大学法学部教授）
- 15：15 いかなるときに有権者は社会的投資を支持するのか
矢内勇生（高知工科大学経済・マネジメント学群講師）
マーク・ブラジル（早稲田大学政治経済学術院助教）
眞柄秀子（日本学術会議第一部会員、早稲田大学政治経済学術院教授）

15 : 45—16 : 30 討論

磯崎典世（日本学術会議連携会員、学習院大学法学部教授）

加藤淳子（日本学術会議連携会員、東京大学法学政治学研究科教授）

高橋百合子（日本学術会議連携会員、早稲田大学政治経済学術院准教授）

16 : 30—16 : 45 （ 休憩 ）

16 : 45—17 : 45 全体討論

17 : 45 学術会議閉会の挨拶

河田潤一（日本学術会議連携会員、神戸学院大学法学部教授）

18 : 00 レセプション

連絡先：眞柄秀子 (hmagara@waseda.jp)